

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

評価責任者	所属	都市局
	氏名	八木 清文

政策	2 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します
政策の目的	<p>【「地域の特色に応じたまちづくり」への気運の高まり】</p> <p>○JR草薙駅・安倍川駅周辺では、駅舎や駅前広場の整備と地域主体のまちづくりが進められています。</p> <p>○大谷・小鹿地区では、東名新インターチェンジの整備と新たな土地利用計画が進んでいます。</p> <p>○三保松原や日本平では、富士山を望める名勝地にふさわしい環境整備が進められています。</p> <p>○このような取組を通じて、今後は地域の特色に応じた持続的なまちづくりにつなげていく必要があります。</p>

(1) 総合評価

評価	—
理由	成果指標調査中

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
地域拠点における定住人口（安倍川・草薙駅周辺）	22,730人 (H26)	22,960人 (23,180人)	調査中	調査中	—	
また訪れたいと思う来訪者の割合	56.9% (H26)	60% (65%)	調査中	調査中	—	
					—	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

--

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	都心の機能を補完する地域拠点の整備及び官民協働で進めるまちづくり		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	—	—

施策2	大規模社会資本や観光資源を活かした交流拠点の整備		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	2 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します
----	---------------------------

施策	1 都心の機能を補完する地域拠点の整備及び官民協働で進めるまちづくり
----	------------------------------------

施策の目的	本市の東西交通軸上に位置するJR草薙駅及びJR安倍川駅の周辺地区は、コンパクトシティを目指すうえで重要な地域拠点です。これらの地域拠点は、交通結節点としての役割だけでなく、地域の交流の場としての機能を担うことから、官民連携のもとJR静岡・清水・東静岡駅周辺の機能を補完し、地域の特色に応じたまちづくりを進めます。
-------	--

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 市街地整備課
	氏名	課長 鷺坂 徳寿

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	安倍川駅及び草薙駅周辺地区では、新駅舎・自由通路や駅前広場等の整備による交通結節点機能の強化を図った。また官民連携による地域の特色に応じた活発なまちづくり活動により、地域交流の場として発展しており、年々の駅乗降客数の増加傾向も踏まえ、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、成果指標であるJR安倍川駅・草薙駅の乗降客数が正常時の数値であるとは考えられないため、評価することはできない。
	令和3年度	—	理由	JR安倍川駅、草薙駅の乗降客数については、令和2年度と比較して増加傾向にあるものの、緊急事態宣言等による人流抑制や在宅勤務の普及など新型コロナウイルス感染症の影響が大きいことから、コロナ禍前に設定した目標値に対する成果として適切に評価することができない。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠	
			1	1.5%増 (9,708人/日)	1.5%増 (9,708人/日)	100.00%	a		
JR安倍川駅の乗降客数	9,568人/日 (平成29年度)	2	2.2%増 (9,778人/日)	18.5%減 (7,796人/日)	79.7%	c	第3次総合計画（H27～R4）での指標設定によりJR安倍川駅の乗降客数は現状値をH24の乗降客数として、これに対して8ヶ年で10%増加することを目標としている。 ●H24時点の現状値 9,016人 ●R4の目標値 H24時点の乗降客数の10%増で9,016×110%=9,918人		
		3	2.9%増 (9,848人/日)	15.3%減 (8,100人/日)	82.3%	c			
		4	3.7%増 (9,918人/日)	—	—	—			
		1	0.7%増 (18,513人/日)	19.25%増 (21,922人/日)	118.4%	s			
	JR草薙駅の乗降客数	18,382人/日 (平成29年度)	2	1.1%増 (18,578人/日)	9.6%減 (16,616人/日)	89.4%		b	第3次総合計画（H27～R4）での指標設定によりJR草薙駅の乗降客数は現状値をH24の乗降客数として、これに対し8ヶ年で10%増加することを目標としている。 ●H24時点の現状値 17,008人 ●R4の目標値 H24時点の乗降客数の10%増で17,008×110%=18,709人
			3	1.4%増 (18,644人/日)	0.7%減 (18,508人/日)	99.3%		a	
			4	1.8%増 (18,709人/日)	—	—		—	

【草薙駅周辺地区】
 （R元年度）
 ・令和元年度末の草薙駅周辺整備事業全体の事業進捗率（事業費ベース）は市道草薙南4号線拡幅工事が一部残工事となっているが98.0%の達成となった。このうち草薙駅南口駅前広場については整備が100%完了した。
 ・当初計画の南口イベント広場に加え、北口芝生広場も都市再生推進法人草薙カルテッドと、都市利便増進協定を締結した。
 （R3年度）
 ・JR草薙駅南北自由通路の広告事業に関して、都市利便増進協定を締結した

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

(千円)

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
草薙駅周辺整備事業	① J R草薙駅北口駐輪場の整備	1	1	14,188	200,765	207,601	6.0	1.0	0.0	○
			2	11,600	0	8,746	4.0	0.0	0.0	
			3	115,000	0	114,759	2.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進	①草薙駅南口メインストリートの利活用検討 ②あかり(照明)のまちづくり事業の実施 ③移動しやすい環境づくりの検討 ④草薙駅南口ランドデザイン研究会の開催 ⑤草薙駅周辺まちづくり検討会議の開催 ⑥草薙まちづくりインターンシップの開催 ⑦JR草薙駅南北自由通路の広告事業に関する都市利便増進協定の締結	2	1	6,400	0	6,075	4.0	0.0	0.0	○
			2	7,000	0	6,994	4.0	0.0	0.0	
			3	7,000	0	6,820	3.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業	①関係機関協議(静岡国道事務所、県警本部、清水署) ②関係者協議・調整(学校、自治会等) ④中之郷9号・国道横断に係る予備設計	3	1	0	0	0	1.3	0.0	0.0	○
			2	15,000	0	14,858	2.0	0.0	0.0	
			3	10,000	0	6,459	2.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	
JR草薙駅北口周辺土地利用計画(用途地域等)見直し事業	①令和3年度は活動なし ※これまでの活動実績 ・個別説明、全体説明会結果等を各戸周知、関係地権者対応(R元年度) ・見直し範囲の状況確認及び関係地権者の意向確認の実施(R2年度)	3	1	0	0	0	1.0	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			3	0	0	0	0.0	0.0	0.0	
			4	—	—	—	—	—	—	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例(◎:計画より進んでいる、○:計画どおり進んでいる、△:計画より遅れている、—:計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	・将来交通需要を見据えた最適な交通環境改善のための検討(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・エリアマネジメントを持続可能なものとするため、一般社団法人草薙カルテッドの人材確保、人材育成、財源確保が課題となっている。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)	・安全で快適な交通環境の実現に向け、引き続き地権者などの関係者及び関係機関との協議・調整を図る(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・都市利便増進協定制度等を活用した公共空間の利活用を拡大し、持続可能なエリアマネジメントの推進を支援する。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)
令和2年度	・将来交通需要を見据えた最適な交通環境改善のための検討(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・エリアマネジメントを持続可能なものとするため、一般社団法人草薙カルテッドの人材確保、人材育成、財源確保が課題となっている。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)	・社会実験結果をもとに、引き続き関係者及び関係機関との協議・調整を図る(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・都市利便増進協定制度等を活用した公共空間の利活用を拡大し、持続可能なエリアマネジメントの推進を支援する。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)
令和3年度	・将来交通需要を見据えた最適な交通環境改善のための検討(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・エリアマネジメントを持続可能なものとするため、一般社団法人草薙カルテッドの人材確保、人材育成、財源確保が課題となっている。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)	・交通シミュレーションなどを実施し、引き続き関係者及び関係機関との協議・調整を図る(JR草薙駅北口周辺交通環境改善事業) ・都市利便増進協定制度等を活用した公共空間の利活用を拡大し、持続可能なエリアマネジメントの推進を支援する。(草薙駅周辺におけるエリアマネジメントの推進)
令和4年度	—	—

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	6 都市・交通
----	---------

政策	2 地域の魅力と活力を高めるまちづくりを推進します
----	---------------------------

施策	2 大規模社会資本や観光資源を活かした交流拠点の整備
----	----------------------------

施策の目的	本市南東部に位置する日本平・三保半島地区は、名勝日本平をはじめ、国宝久能山東照宮、世界文化遺産構成資産「三保松原」等、世界に誇れる歴史的・文化的価値の高い観光資源が集まっています。当地区では、東名日本平久能山スマートインターチェンジの開設による富士山静岡空港を利用したインバウンド観光や、中部横断自動車道（新清水JCT）開通による甲信越地方からの新たな観光、国際拠点港湾清水港への国内外からのクルーズ観光、これらの観光客を積極的に誘致することで、観光を核とした地域経済の活性化を目指しています。
-------	---

評価責任者	所属	都市局 都市計画部 大谷・小鹿まちづくり推進課
	氏名	課長 松井 昭典

（1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	日本平山頂展望施設「日本平夢テラス」（H30.11月）、三保松原文化創造センター「みほしるべ」（H31.3月）の開設や周辺の整備により観光客が増加している。また、「日本平久能山スマートインターチェンジ」の開通により交通アクセス性が向上し、効率的な回遊性が確保されたことが誘客に繋がっていると考えられる。さらに、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進による認知度の向上も図られている。よって、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	—	理由	設定している指標日本平・三保松原観光入込客数について、新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響により適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。なお、コロナ禍においても日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加や、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進が図られている。
	令和3年度	—	理由	設定している指標日本平・三保松原観光入込客数について、新型コロナウイルス感染症予防による人流抑制の影響が令和3年度においても続いており適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。なお、コロナ禍においても日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加や、スマートインターチェンジ周辺のまちづくり事業の推進が図られている。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（％）	評価	目標値の算出根拠
			1	2,624	2,666	101.6%	a	
成果指標	日本平・三保松原観光入込客数 (千人/年)	2,272 (H26～29平均)	2	2,649	1,759	66.4%	d	日本平山頂での交通量調査及びみほしるべ入館者数からの実測値 H26実績の1%（約25千人）が毎年増加 （※観光交流客数：観光・MICE推進課より）
			3	2,674	1,807	67.6%	d	
			4	2,699	—	—	—	
			1					
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
指標以外の	・日本平久能山スマートインターチェンジ利用交通の増加 ※開通当初(R1.10)平均7,100台/日 ⇒ 半年後(R2.3)平均8,100台/日 ⇒ 1年半後(R3.3)平均9,700台/日 ⇒ 2年半後(R4.3)平均10,300台/日 ・恩田原・片山土地区画整理事業：企業立地に向けた基盤整備の推進 ・大谷・小鹿地区まちづくり計画推進事業：宮川・水上地区の交流エリアとして民間活力を導入したまちづくりの実現に向けた土地区画整理事業の準備の推進							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
日本平公園整備事業	①山頂施設整備 ・バリアフリー園路整備の用地交渉 ②平原ゾーン及びアクセス道路整備 ・平原ゾーン及び駐車場整備工事の実施 ・アクセス道路整備工事の実施	1	1	124,230	15,115	139,345	4.0	0.0	0.0	○
			2	161,906	277,886	439,792	4.0	0.0	0.0	
			3	255,588	233,310	488,898	4.0	0.0		
			4	—	—	—	—	—	—	
恩田原・片山土地区画整理事業	①土地区画整理事業の継続実施（組合施工） ・組合事務局への指導と補助金等交付事務 ・国、公共施設管理者との協議 ・法76条や地区計画の申請者への指導、協議	2	1	1,173,559	600,743	600,743	6.0	0.0	0.3	○
			2	694,289	1,173,559	1,173,559	5.0	0.3		
			3	714,857	694,289	803,969	4.0	1.0		
			4	—	—	—	—	—	—	
大谷・小鹿地区まちづくり計画推進事業	①宮川・水上地区まちづくり推進事業 ・土地区画整理事業実施に向けた合意形成活動 ・都市計画決定に向けた関係機関との協議	3	1	6,698	0	6,313	5.0	0.0	0.3	○
			2	59,000	0	0	6.0	0.3		
			3	24,281	58,984	70,922	6.0	0.0		
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	「東名新インターチェンジ開設事業」の完了について	日本平久能山スマートインターチェンジが令和元年9月14日に開通したことから、主要事業からは削除。
令和2年度	次年度以降においても新型コロナウイルス感染症の影響が継続する場合の成果指標の設定について	日本平・三保松原観光入込客数に代わる成果指標の設定は困難であるため、コロナ禍での実績を考慮した目標値、評価方法について検討する。
令和3年度	新型コロナウイルス感染症による人流抑制の成果指標に対する影響について	成果指標である日本平・三保松原観光入込客数の令和2年度から令和3年度の達成率増加が1.2%であり、新型コロナウイルス感染症による人流抑制の影響は底を打ったものと考えられるため、令和4年度の成果指標における評価実施を検討する。
令和4年度	—	—